

「花を愛するよう」に」という題で、周郷博士の書かれた文章に（このかなしき幼児教育、チャイルド社）、インドの詩人であり哲学者であるタゴールが、大正五年にはじめて神戸の港に上陸したときの印象記が引用してある。それは「日本の旅」の一節で、次のように述べられている。

「なお一つの光景が、私を非常に幸福にさせた。それは日本の子どもである。こんなに大勢の子どもが、いたるところの路上にあそんでいるのを、どこの国へいっても見たことがない。日本人は花を愛するようにまた子どもを愛しているからだと思った。子どもを愛するには、少しも上べのかざりはいらぬ。ただ私無く偏頗なくして、彼らに花のように愛することができればよいのである。」

私は、この美しい文章を何度も読み返した。そして、いまの子どものたち状態を考えた。路上に遊ぶ子どもの姿

は、めったに見られない。大きなかばんをかかえて学習塾や体育教室に行く子どもをバスの中に見かけても、花のように遊んでいる子どもの姿を見ることはない。幼稚園でも、保育園でも、子どもたちは遊ぶことができないでいる。タゴールの文章から考えれば、それはおとなが、「私無く偏頗なく」子どもを「花のように愛する」心を見失った証拠である。その心はだれでも内心をさぐればあつるのだから、社会の現実の大きな力に押流され、将来への不安や人の心の欲深さによって見えなくなってしまう。

ひたすらに、いまを楽しんで生きる子どもたちを見るときに、私共は幸福な気持ちにさせられる。それを具体的につくり出すのは保育者の力である。それに原動力を与えるのは、幼児期の素朴な心を、人間の成長の中に位置づける人間観と教育観である。

(津守 真)

幼児の教育 第八十巻 第六号

六月号 © 定価二七〇円

昭和五十六年五月二十五日 印刷
昭和五十六年六月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津守 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

110 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします